

おかげさまで開館20周年を迎えました。

恩納村博物館は平成13年5月1日の開館から今年で20周年を迎えました。このように記念すべき節目を迎えることができたのも、一重に村民の皆様や関係者各位の博物館活動に対するご理解とご支援の賜物と深く感謝申し上げます。7月20日から開館20周年記念展「恩納村博物館20年の足あと」を開催していますので、その中から当館のこれまでの歩みをご紹介します。

博物館建設の動きは、それまでに恩納村教育委員会にて収集されていた民具資料のほか、平成元年に「ふるさと創生資金」によって民具資料約3,000点を購入したことを契機として、具体化していきました。この民具資料と村内の遺跡発掘調査により得られた遺物資料などを合わせて展示公開する施設を建設するため、平成6年3月に最初の「恩納村歴史民俗資料館（仮称）基本構想」が策定されました。この基本構想にさらに検討を加え、「（仮称）恩納村立博物館新築基本設計」が平成9年11月に完成しました。この基本設計を基に、平成10年度に建物と展示の実施設設計が作成され、同時に建設用地が現在の仲泊内海地区に決まりました。建設のための埋立て工事が行われ、仲泊内海地区の景観が現在のようになったのはこの頃からです。埋立て完了後の平成11年8月から建設工事等、平成12年度には館内の展示工事が実施され、博物館が完成しました。

博物館の完成後、平成13(2001)年5月1日の開館に先立ち、4月25日に、開館記念式典が挙行されました。当日は多くの関係者が見守る中、当時の大城英喜村長、志喜屋文康村議会議長らによるテープカットが行われました。その後、会場を研修室に移し、記念式典が行われました。5月1日の開館後、1ヶ月間で2,100名の入館者があり、平成14年3月5日には入館者1万人を達成しました。

その後、当館では「恩納村の海・人・山」をメインテーマとして、地域の優れた文化遺産を村民の共有財産として受け継ぎ、次の世代へと伝えていくため、さまざまな展示会や講座、資料の収集・調査研究などの博物館活動を展開しており、現在までに17万人以上の方にご来館いただいております。

当館では開館20周年の節目を機に、今後も恩納村の風土に根差した地域博物館として、村の恵まれた自然環境を次世代に引き継ぐとともに、「サンゴの村宣言」SDGsプロジェクトに寄与し、次世代を担う人材育成や自然環境にやさしい地域づくりに貢献するため、常設展示室のリニューアルに取り組んでいます。現在は既存の常設展示に加え、自然史分野の展示を発展・充実させた「自然ゾーン」の新設計画を進めています。

社会教育施設として更なる博物館活動の充実に取り組んで参りますので、今後とも皆様の変わらぬご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



開館テープカット



平成21年度博物館講座
「昆虫採集と標本作り」



平成27年度企画展「恩納村の地形と地質」

開館20周年記念展「恩納村博物館20年の足あと」

開催期間：11月14日（日）まで 午前9時～午後5時

休館日：毎週月曜日（祝日の場合は開館）、祝日の翌日

※新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、予告なく開催期間を変更する場合がございます。

最新情報は恩納村博物館ホームページをご覧ください。